

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	28	高岡	高等学校	課程	定
------	----	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る。 県中部の定時制高校として、様々なニーズのある生徒を支援し、きめ細かな学習活動や探究活動、キャリア教育の充実を図ることで社会性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○今の自分を認め、成長させたいと思っている生徒を求めます。 ○高校生活で「付けたい力」を言うことができる生徒を求めます。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○自分を大切に、他の人も大切に考えられる生徒を育成します。 ○目標をもち、自ら考え行動できる生徒を育成します。 ○協働して行動できる生徒を育成します。 ○地元へ愛着をもつことができる生徒を育成します。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)	○将来を見据えた学力、体力をつけ、感性を磨く取組を行います。 ○他者と関わる活動を積極的に行います。 ○地域・社会に興味関心を持つ取組を行います。

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	生徒は将来の可能性を広げるために勉強がんばっているようである。履修科目すべての単位取得はあと少しで達成できるところまで来ていた。平均評定が4.5以上である成績優秀者を増やすには教師が今よりも、わかりやすい授業をすることである。多くの生徒が充実した学校生活を送っていると感じる。
【社会性の育成】 評価 【 B 】	生徒たちが地域や社会について学べる機会を提供している。生徒たちが学習や学校行事を通じてコミュニケーション能力を育成する機会を提供している。総合的な探究の時間(学校訪問・ものメッセなど)の活動などによって、生徒が地域の人や企業の活動を理解し、地域のことを学ぼうとする意欲がみられた。今年、参加した龍馬マラソンボランティアは、来年度以降も参加することで生徒の社会性の育成につながると思う。
【チーム学校】 評価 【 A 】	保護者に教育活動の広報ができており、特に学校新聞「星空」は読ませていただきました。また、不祥事防止に向けて定期的に研修会も開き不祥事防止が絶対にならないようにしている。夜間の活動のため制約は多いが、学校運営協議会とおし、地域と学校が連携して目の前のさまざまな課題に取り組んでいきたい。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力的向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○基礎学力の定着・学力の向上 ・履修科目すべての単位取得 ・成績優秀者50%以上 ○授業外学習時間の増加(R6 1年33% 2年20%→R7 全学年50%) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」82%(R6:76.2%)	・授業改善の実施 ・定期試験等で学習の成果を実感させる。 ・タブレットを活用し、授業外学習に向けた環境を整える。 ・保護者面談等により、家庭との連携を取りながら学習支援をする。 ・学校訪問や体験活動等により、キャリア形成・進路に関する意識を醸成する。 ・総合・LHの振り返りで、学習内容や意義を確認する。	C ・1学期定期試験で、履修者の欠点保持者4名、うち1名は不登校である。 ・1学期の成績優秀者の割合は28%である ・授業外学習時間の増加→15分以上30分未満:1名 ・「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」→(全学年72%)	・授業改善には発達障害の研修で学んだことを取り入れた授業を行う。 ・学期末の三者面談に加え、保護者との連携により、学習支援を進めている ・総合的な探究の時間や学校行事で、地域の人の講演や企業・学校訪問など、進路に関する意識の醸成と、将来のための学習意欲を高めるための活動を行う。	C ●基礎学力の定着・学力の向上 ・履修科目すべての単位取得者:88%(目標-12%) ・成績優秀者:25%(目標-25%) ●授業外学習時間の増加 ・30分~1時間未満:1名、2時間以上:2名 全学年18%(目標-32%) ●将来のための勉強をしている生徒の増加 ・「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」は全体の69%(目標-13%) ●落ち着いた学べる学習環境の設定が難しかった。	●それぞれの生徒に応じた対応の検討 ●学び直しの取組の検討 ●授業日数の増加
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○豊かな人間性・道徳性・社会性等の育成 ・「自分という存在を大切に思える」生徒82%以上(R6:76.9%) ・「4月当初に比べて、コミュニケーション能力が高まった」生徒70%以上(R6:69%)	○生徒同士が関わる取組を行う。 ・遠足・県体・総合的な探究の時間等とおして、学年を越えた協調心を養う。 ○生徒の多様化に対する対応力の向上 ・発達障害に関する研修の実施	B ・自分という存在を大切に思える→(全学年83%) ・高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある→(全学年22%) ・立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている→(全学年78%) ・人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している→(全学年83%)	・遠足・県体・総合的な探究の時間等とおして、今後も学年を越えた協調心を養う。 ・発達障害に関する研修の実施	B ○豊かな人間性・道徳性・社会性等の育成 ・「自分という存在を大切に思える」生徒は75%(目標-7%) ・「4月当初に比べて、コミュニケーション能力が高まった」生徒は75%(+5%) ・卒業生の希望進路決定率75% ●学習場面において、生徒同士が話し合う場面は少なく、伝えることなど課題を感じる。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○生徒の社会的自立・社会参画 ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答75%(R6:61.5%) ○地域・関係機関等の連携 ・地域・関係機関等との連携回数5回以上	C ・「総合的な探究の時間」を活用し、地域の人や企業の活動を理解し、地域と共に学ぶ取組の実施 ・地域でのボランティア活動を通じて、地域を知り、地域の中で貢献する意識を醸成する。	・文化祭において地域の方と関わりをもつ。 ・体験的な活動や各種講演を通して、社会に参画する意義を学び、参加しようとする意識を高める。	C ●生徒の社会的自立・社会参画 ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答は53%(目標-22%) ○地域・関係機関等の連携 ・地域・関係機関等との連携回数12回 ・文化祭において出店し、地域と関わりを持てた。 ・龍馬マラソン給水ボランティアに3名の生徒が参加した。	●総合的な探究の時間において地域・関係機関や外部講師等を積極的に活用 ●長期休業中のボランティア活動の紹介
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定する回数10回(R6:10回) ・「総合的な探究の時間」で、各教科での学びを生かす活動10回(R6:10回)	○各教科においてタブレットを活用し、情報活用能力を育成する。 ・小グループでの発表の場面を設定することにより、自分の意見を発表できるプレゼンテーション能力を育成する。	B ・各教科において、タブレットを活用した取り組みを進めているが、教員によって取り組みに差がある。 ・総合的な探究の時間では、体験的な取り組みや外部の方の講演などを実施し、教科での学びを生かす場面を設定した(9月までに7回実施) ・4月のキャリアパスポートでは自分たちの意見交換できる場があった。	・各教科におけるタブレットの活用を進める。 ・外部の方の講演や地域での学びを通して、教科での学びがどのように生かされているかを認識できるようにする。	B ○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定する回数は10回 ・「総合的な探究の時間」で、各教科での学びを生かす活動は10回 ○外部講師から実社会の話や課題を聞くことにより、社会の課題を考える機会になっている。

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	★学校の魅力化・特色化 ・地域と連携した活動を通して、学校の取組を広く知ってもらおう ・地元中学校からの入学者の増加	○学校新聞の発行等により行政等の関係機関における定時制の取組の認知は進んでいる。一方で地域での活動が無いため、地域の方にとって機会が少ない。 ・地域での活動や地域と連携した活動を1度は実施する。 ○魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・卒業生全員の進路実現 ○学校運営協議会等の実施回数 ・学校運営協議会2回	・校内外での学年を越えた取組により、生徒が学校生活に充実感を感じられるようにする。 ・HPを活用した広報に努める。 ・学校新聞「星空」の毎月発行や学校メールにより各家庭・中学校に、学校での活動の周知を図る。 ・学校運営協議会で学校の在り方と魅力化について検討・推進する。	B ・総合的な探究の時間で地域の人・企業の体験活動や講話を設定し、地域で学ぶ人材育成を進めている。 ・学校新聞を毎月発行し、生徒・保護者に加え、土佐市役所・いの町に配布し、学校での活動を広報している。 ・学校運営協議会を7月4日に実施	・地域での学びを取り入れたキャリア教育の充実 ・学校新聞の毎月発行	A ○学校新聞の毎月の発行等により行政等の関係機関に定時制の取組をお知らせできた。 ・龍馬マラソン給水ボランティアに参加し地域での活動を実践した。 ・卒業生全員の希望進路決定率75% ○学校運営協議会等の実施回数:2回 ○定時制の活動を広くPRしながら、魅力や必要性を伝えることができた。	●定時制の取組を学校新聞等で広報する。
	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的目標(指標) ・不注意事案発生件数0件 ・ハラスメントについての理解度100% ・法令遵守の意識100% ○校内研修の実施(5回) ○不祥事防止委員会の実施(3回)	・「信頼される学校づくりのために改訂版」を活用した研修会の実施。 ・打合せ会での不祥事防止に対する呼びかけを適宜行う。 ・教職員が話し合う研修を実施する。	A ・不祥事防止研修4回実施 ・不祥事防止動画による自主研修 ・不祥事防止について、各教員に面談実施 ・不祥事防止委員会5回実施 ・職朝等で不祥事や服務に関する注意	・引き続き不祥事防止委員会・不祥事防止研修の実施 ・打ち合わせ会や職員会での不祥事防止の呼びかけ	A ・不注意事案発生件数0件 ・ハラスメントの理解度:100% ②校内研修の実施回数10回 ③不祥事防止委員会実施回数9回 ○教職員は緊張感をもって業務に取り組んでいる。	●研修会において教職員が話し合う場の設定 ●不祥事防止委員会の見直し
	★長時間勤務の解消 ○教職員の心身の健康に留意した働きやすい職場環境作り ○生徒の登校しない時期の年休・特休の取得率向上 ○ICTを活用した業務改善	○有給休暇の取得奨励 ・年休や夏期特休の取得奨励 ○月45時間を超える時間外勤務者0名 ○ICTを活用した業務改善	・長期休業期間等での有給休暇の有効活用等を奨励する ・時間外勤務が増えてきている職員には、事前にアドバイスを ・ICTを活用してアンケートの実施・集計や、資料の共有によるペーパーレス化をすすめる	A ・有給休暇の有効活用ができていない ・月45時間を超える時間外勤務者0名 ・ICTを活用したアンケートの実施や資料のデジタル化による共有がすすみ、ペーパーレス化がすすんでいる	引き続き、長時間勤務解消に向けた取組を続けていく。	A ○有給休暇の取得奨励 ・年休や夏期特休の取得奨励 ○月45時間を超える時間外勤務者0名 ○ICTを活用した業務改善 ・職員会のペーパーレス化が進んだ。 ○業務の繁忙期はあるものの長時間勤務は解消された。	●業務をより計画的に進めることで、繁忙期の業務減少に努める。 ●各種会でペーパーレス化を一層強化する。